
目次

目次	1	メンテナンス項目	5
ファームウェアアップデート時の留意点	1	V1.70の修正	5
新機能	2	V1.60の修正	6
V1.70の追加	2	オプションスロットカード	6
V1.50の追加	2	リモートコントロール	6
User Defined Layer	2	TMCompantion 接続時のメンテナンス	6
User Defined Layerの登録	2	モニターセクション	6
User Defined Layer 画面	2	プロジェクト	6
MUTE Key Function	3	工場出荷競設定	66
MIDI Event Trigger時のMIDI コントロールメッセージ	3	V1.50の修正	6
MIDI→SETUP 画面フィルタリング	3	TASCAM FX／TASCAM FX 2.0	6
メーター表示	3	TASCAM FX 2.0	6
メーターブリッジでの表示	3	リモートコントロール	6
Windows Vista	3	V1.10でのメンテナンス	6
V1.10の追加	4	プロジェクト	6
IF-FWMK2 対応	4	その他の注意事項	7
MIDI	4	V1.60の注意事項	7
ミキサーパラメーターの		P2でコントロール時のDTRS REC FUNCTION 設定	7
MIDIコントロールチェンジメッセージ対応	4	MMC コントロール対象のAUTO DETECT	7
MIDI→SETUP 画面フィルタリング	4	パソコンとのUSB 接続	7
MIDI Device Inquiry メッセージ対応	4	IF-AE/DM クロックマスター設定時の注意	7

ファームウェアアップデート時の留意点

カスケード接続されているDM-4800のファームウェアアップデートを行う時は、必ずカスケードケーブルを外してから行ってください。

新機能

V1.70の追加

- IF-AV/DM (Aviom A-Net 16 カード)、および IF-CB/DM (CobraNet カード) に対応しました。

設定の詳細については、IF-AV/DM、IF-CB/DMの取扱説明書をご参照ください。

V1.50の追加

* User Defined Layer

DM-4800 の各モジュールを自由に組み合わせたユーザー定義のレイヤーを作ることができます。

このレイヤーにアサインされたモジュールのフェーダーコントロール、ミュート、ソロ、リング、エンコーダーなどのパラメーターのリモート操作ができます

User Defined Layer の登録

REMOTE → EXT.CTRL 画面で User Defined Layer を登録します。

EXTERNAL CONTROL LIST					
STATE	DEVICE	ID	PORT	CH	SCREEN
→	24 USER Defined	--	INT	(01-24)	

ID、PORT、CHの設定は、ありません。

User Defined Layer 画面

EXT.CTRL 画面の SCREEN ボタンにカーソルをあわせて ENTER キーを押します。POD4 キーで User Defined Layer を選択すると User Defined Layer 画面を表示します。また、OPTION → PREFERENCE 画面の SEL Key Follows Fader Layer Status をチェックしている場合は、LAYER STATUS セクションの REMOTE キーを押すと User Defined Layer を表示します。

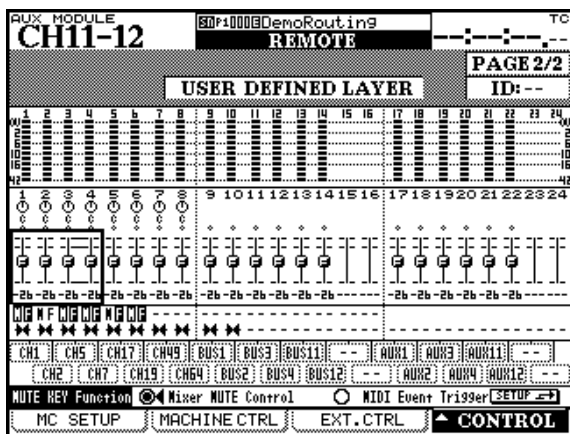
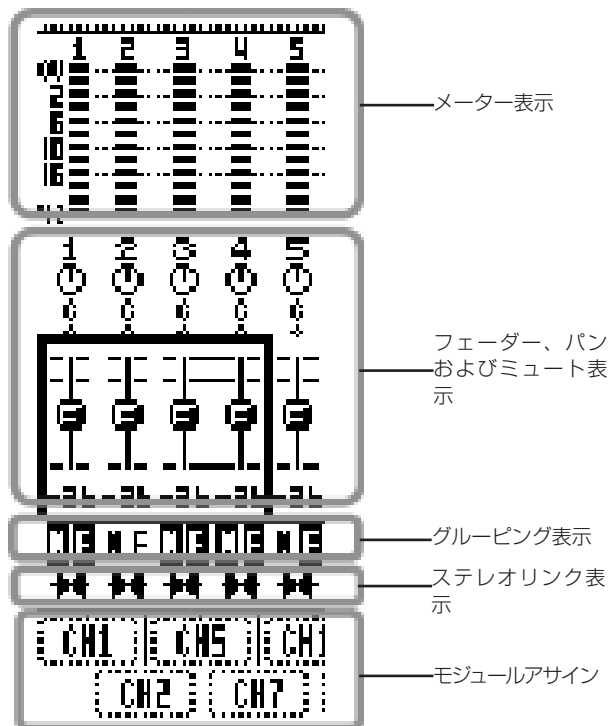


図 1 USER DEFINED LAYER 画面

設定されたモジュールの以下の機能のモニターができます。

- メーター
- フェーダー、パンおよびミュート
- グルーピング設定
- ステレオリンク設定



メーターポイントは、METER/FADER → METER 画面で選択されているポイントを表示します。

カーソルキーまたは操作したいチャンネルの SEL キーを押してカーソルを移動し、フェーダー、パンの POD つまみでの操作もできます。

グルーピング設定は、以下のような意味を持ちます。

- : ミュートグループマスター、グルーピングオン
- : ミュートグループマスター、グルーピングオフ
- F : フェーダーグループマスター、グルーピングオン
- F : フェーダーグループマスター、グルーピングオフ
- : グループマスター以外

マスターチャンネルのみ表示され、スレーブは表示されません。

ステレオリンク設定は、以下のような意味を持ちます。

- ⌘ : ステレオリンクオン
- : ステレオリンクオフ

カーソルをモジュールアサインセクションへ移動し、JOG/DATA ダイヤルでアサインしたいモジュールを選択し、ENTER キーを押して確定します。

チャンネル 1-64、BUSS 1-24、AUX1-12 のモジュールのアサインができます。STEREO モジュールのアサインはできません。

* MUTE Key Function

MUTEキーをミキサーパラメーターのMUTE 操作子として使用するか、MIDIイベントトリガキーとして使用するかを選択できます。MIDIイベントトリガとして使用する場合は、MIDIコントロールチェンジメッセージの出力ができます。

MIDIイベントトリガキーとして使用する場合は、MUTE KEY FunctionセクションのラジオボタンMIDI Event Triggerへカーソルを移動してENTERキーを押して確定します。

MIDI Event Trigger時のMIDI コントロールメッセージ

MIDIイベントトリガキーとして使用する時のコントロールチェンジメッセージは、MIDI→CtrlChg EXT画面で設定します。

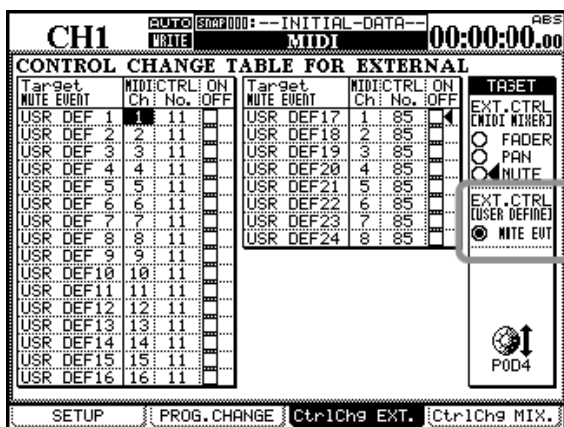


図 2 MIDI→CtrlChg EXT画面

MUTE Key FunctionセクションのSETUPボタンにカーソルをあわせてENTERキーを押しても、この画面にジャンプします。コントロールチェンジメッセージのデータバイトは、MUTE Keyを押したときに127 (7Fh)、MUTE Keyを離れたときに0 (00h) が出力されます。

MIDI→SETUP画面フィルタリング

MIDIイベントトリガ対応にともない、USB MIDI 4 : PC/CCポートにC.Chg EXTのフィルターが追加されました。

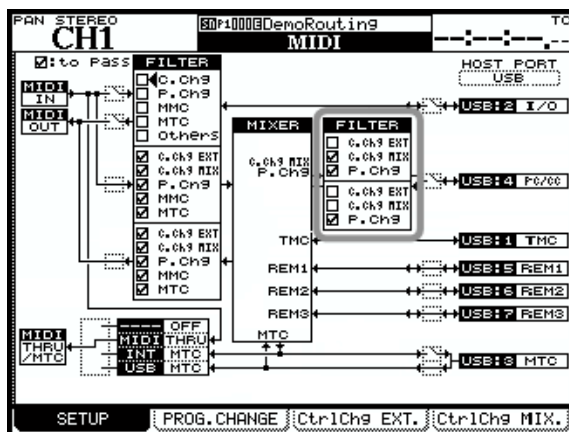


図 3 MIDI→SETUP画面

* メーター表示

User Defined Layerのメーター表示は、User Defined Layer画面にも表示されますが、METER/FADER→METER画面にも表示できます。

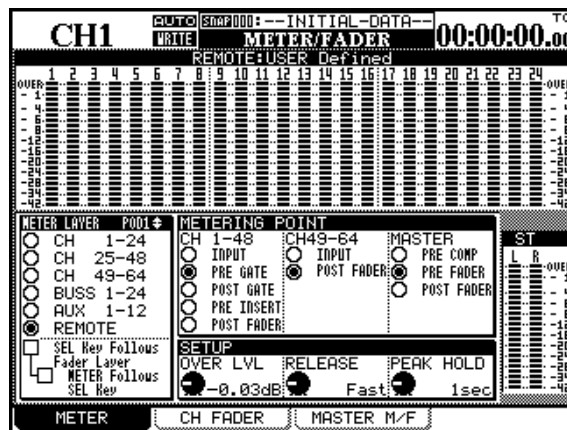


図 4 METER/FADER→METER画面

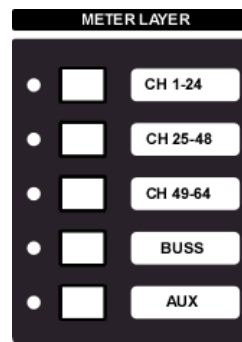
POD1でカーソルをREMOTEボタンへあわせると User Defined Layerのメーターが表示されます。

メータブリッジでの表示

別売りのオプションメーターユニットMU-1000でも User Defined Layerのメーター表示ができます。

MU-1000のメータリングポイントセクションには、REMOTEポイントがありません。

METER LAYERセクションのLEDが全消灯の時はREMOTEレイヤーのメーター表示になります。



REMOTEレイヤーへの切り換えは、METER/FADER→METER画面で行ってください。

OPTION→PREFERENCE画面のSEL Key Follows Fader Layer StatusとMeter Follow SEL Keyをチェックすることにより、LAYER STATUSをREMOTEに切り換えるとMeter画面も追従します。

* Windows Vista

Windows Vista 32ビットおよび64ビットに対応しました。

Windows Vista対応のDAWアプリケーションなどのリモートコントロールやMIDIメッセージの入出力を行うことができます。

V1.10の追加

* IF-FW/DM MkII 対応

別売りのオプションカード：IIF-FW/DM **MkII**を装着することにより、パソコンとDM-3200間で最大32入力／出力（44.1/48/88.2/96kHz時）のオーディオデータの伝送ができるようになりました。

IF-FW/DM **MkII**の詳細については、IF-FW/DM **MkII**の取扱説明書をご覧ください。

* MIDI

ミキサーパラメーターのMIDIコントロールチェンジメッセージ対応

MIDIコントロールチェンジメッセージによる、ミキサーパラメーター（フェーダー、パンおよびミュート）のコントロールに対応しました。

これによりミキサー本体の操作と同期してMIDI機器のコントロールすることや、逆にMIDI機器からミキサーパラメーターをコントロールすることができます。

MIDI→CtrlChg MIX画面のCONTROL CHANGE TABLE FOR MIXER上でコントロールメッセージ番号のアサインを行います。

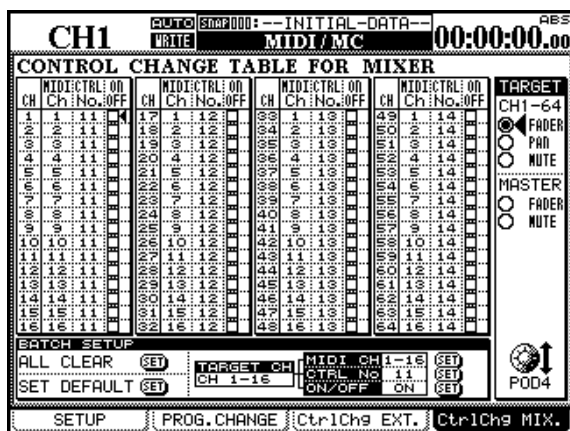


図 5 MIDI→CtrlChg MIX画面

この画面の操作方法は、DM-4800 取扱説明書のコントロールチェンジ（P107）と同様ですので、詳しくはそちらをご覧ください。

BATCH SETUPを使用すると16チャンネル毎の一括設定ができます。

MIDI→SETUP画面フィルタリング

ミキサーパラメーターのMIDIコントロールチェンジ対応にともない、USB MIDI 4：PC/CCポートにフィルタが追加されました。

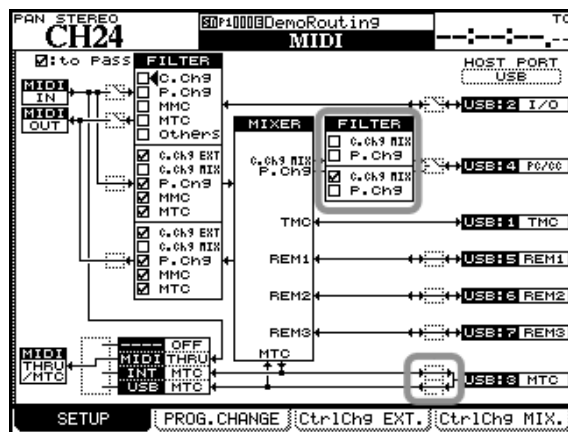


図 6 MIDI→SETUP画面

MIDIタイムコード用のUSB MIDIポート3の入出力のOn/Off設定が入出力一括になっていましたが、独立して設定できるようにしました。

MIDI Device Inquiry メッセージ対応

下記のMIDIポートに外部機器よりIdentity requestされたときに、以下のIdentity replayメッセージを送信するようになりました。

F0 7E 00 06 02 4E 07 01 00 06 v1 v2 pp 00 F7

v1：Major version number of firmware

v2：Minor version number of firmware

pp：MIDIポートID

00：本体MIDI IN/OUT

04：USB MIDI 4：PC/CCポート

05：USB MIDI 5：USB REMOTE 1ポート

06：USB MIDI 6：USB REMOTE 2ポート

07：USB MIDI 7：USB REMOTE 3ポート

メンテナンス項目

V1.70の修正

- デジタル入力に信号が入力されていないときに、サンプリングコンバーターを有効にしておく、デジタル出力端子から出力しない場合があった不具合を修正しました。
- ソロ切り換え時に、STUDIO OUTPUT 端子からの出力音が一瞬ミュートしてしまう不具合を修正しました。
- RS-422 コマンド (SONY P2 プロトコル) 送信時に、被制御側の機器において、期待通りの動作を行わない不具合を修正しました。
 - 被制御機が再生中に REC キーを押すと、EDIT ON 状態になります。
 - 被制御機が EDIT ON 中に PLAY キーを押すと、EDIT OFF 状態になります。
 - 被制御機が EDIT ON 中に REC キーを押しても、EDIT ON 状態のままです。
- サンプリング周波数が 44.1 kHz または 88.2 kHz 時に、ディレイエフェクトで設定したディレイ値が、実際の値と合っていない不具合を修正しました。
- “CONTROL ROOM SELECT” 設定で、SEL 1-6 のいずれかに “DIGITAL IN1”、“DIGITAL IN2”、“2TR (ANALOG)”、“SLOT1 x-x”、または “SLOT2 x-x” がアサインされている状態で、“DIGITAL IN1”、“DIGITAL IN2”、“2TR (ANALOG)”、“SLOT1 x-x”、または “SLOT2 x-x” を選択したときに、オートメーションを再生する、またはスナップショットのリコールを実施すると、コントロールルーム出力およびスタジオ出力がミュートされてしまう不具合を修正しました。（“STEREO” をモニターとして選択している場合には、この症状は発生しません。）
- コントロールルームのモニターソースに “DIGITAL IN1”、“DIGITAL IN2”、“2TR (ANALOG)”、“SLOT1 x-x” が選択されているときに、スナップショットのリコールかオートメーションを再生すると、コントロールルームのモニターソースが STEREO OUT に切り換わることもある不具合を修正しました。
- “STUDIO SETUP” の “OUTPUT” 設定が “From CONTROL ROOM” のときに、“CONTROL ROOM SELECT” で (SEL 1-6 を使って) モニターソースを “DIGITAL IN1”、“DIGITAL IN2”、“2TR (ANALOG)”、“SLOT1 x-x”、“SLOT2 x-x”、“SLOT3 x-x”、または “SLOT4 x-x” に切り換えたときに、スタジオ出力にクリック音が発生する不具合を修正しました。
- IF-FW/DM MKII を SLOT 3 に装着した場合に、SLOT 3 の Trk9-32 が出力信号として選択できない不具合を修正しました。

V1.60の修正

* オプションスロットカード

- 88.2kHzあるいは96kHzで動作中に、マスタークロックの設定条件によりIF-TD/DMスロットカードで伝送する2チャンネル単位のオーディオ信号のODD/EVENが逆転する事がある不具合を修正しました。
- IF-FW/DM MKIIをSLOT 1に挿入し、IF-SM/DMをSLOT 2に挿入したとき、ミキサーが起動できない不具合を修正しました。
- IF-SM/DMを使用時のサラウンドモニター時にMONITOR SELキーを押したときにクリック音が発生する不具合を修正しました。
- IF-SM/DM使用時にベースマネージメントがオンの時にベースマネージメントのLPFを切り換えとLFE出力にノイズが発生する不具合を修正しました。
- IF-SM/DMのモニターレベルを調整するとノイズが発生する不具合を修正しました。
- パネルのMONOキーを使用して、IF-SM/DMのダウンミックスのオン/オフを行うときに正しく動作しないことがある不具合を修正しました。
- IF-SM/DMの出力ゲインを上げてバスのミュートを行った時に、ミュートまでの時間が長くなってしまふ不具合を修正しました。

* リモートコントロール

- 内蔵のタイムコードジェネレータ (MTC Generate) 走行中にマシンコントロールリストから“MTC Generate”を削除すると再登録するまでMTCを止めることが出来ない不具合を修正しました。
- ジッターを持っているMTC入力に対して同期精度を向上させました。
- MTC出力が30NDFの時に不正なタイムコードを出力してしまうことがある不具合を修正しました。
- MMCによるリモートコントロールでシャトルモードが正常に動作しない不具合を修正しました。
- ロケートメモリにロケート時間が正しくストアされないことがある不具合を修正しました。

* TMCompanion 接続時のメンテナンス

TMCompanionのメーター画面が開いた状態でパソコンを再起動するとDM-4800が動作不能となる不具合を修正しました。

* モニターセクション

- TO SLATEキーを押したときにフィードバック音が入る不具合を修正しました。
- TO SLATEキーやMONITOR SELキーを押したときにクリック音が発生する不具合を修正しました。

* プロジェクト

- プロジェクトをロードした時に、パネル上のエンコーダーモードのLED表示がプロジェクトの設定通りに表示しない不具合を修正しました。
- シャットダウン動作時にカレントプロジェクトがプロテクトされていないのに
“Current Project is protected.”
“Can't STORE current project.”
というポップアップメッセージが表示されてしまうことがある不具合を修正しました。

* オペレーション

Fsを48kHzから96kHz（またはその逆）に切り換えたときにEQ設定が正しく音に反映されない不具合を修正しました。

* 工場出荷時設定

FADER SENSITIVITYの工場出荷時設定を3.3kHzから2.0kHzへ変更しました。

V1.50の修正

* TASCAM FX/TASCAM FX 2.0

Tap Tempo機能が正しく機能していなかった不具合を修正しました。

* TASCAM FX 2.0

ダイナミクス・ライブラリにアクセスした時にDM-4800がクラッシュしてしまうことがある不具合を修正しました。

* リモートコントロール

MIDI FADERとDAWコントロールを登録している時にMIDI FADER機能として操作中にステレオフェーダーに触れると画面がDAWコントロールに切り替わり、USB MIDI Port1にMIDIメッセージが出力されてしまう不具合を修正しました。

V1.10の修正

* プロジェクト

カスケードマスター／スレーブの関係が変わるプロジェクトをロードしたときにカスケード接続状態が不正になる場合がある不具合を修正しました。

その他の注意事項

V1.60 の注意事項

* P2でコントロール時のDTRS REC FUNCTION設定

複数のDTRS機を接続してREC FUNCTION設定を行う場合は、9トラック以降のREC FUNCTIONをDTRS側で操作すると、そのステータスがミキサーに反映されません。

* MMCコントロール対象のAUTO DETECT

MMC Full (Closed-loop) コントロールを行っているProjectをロードする場合は、接続機器がMMCコントロール可能な状態にしてからロードしてください。また、電源投入も接続機器の電源を先に入れてからミキサーの電源を入れてください。接続機器の準備ができていないとコントロールのステータスが正しく表示されず、操作ができない場合があります。

* パソコンとのUSB接続

DMとUSB接続しているパソコンをスタンバイ (Windows XP)、休止状態 (Windows XP / Windows Vista) または、スリープ (Windows Vista / Mac OS X) 状態にすると、その後DMのUSB-MIDIポートと通信ができなくなります。その際は、下記のようにすることでDMのUSB-MIDIポートと通信できるようになります。

MacOSXの場合：

USBケーブルを一度外してから接続し直した上で、DMのUSB-MIDIポートと通信するアプリケーションを再起動させてください。

Windows XP もしくは Windows Vistaの場合：

DMのUSB-MIDIポートと通信するアプリケーションを再起動させてください。

この問題を回避するために、パソコンが自動的にスタンバイ / スリープ / 休止状態にならないように設定してください。

* IF-AE/DMクロックマスター設定時の注意

IF-AE/DMの入力の1つをクロックマスターに選択しているときに、クロック設定部のラジオボタンを他のIF-AE/DMの入力信号へ移動させると、オーディオ信号ラインにノイズが発生しますので、他の入力信号を選ばないようにしてください。